

I 実践

1 本校の人権教育の目標

生徒の発達段階や地域の実情をふまえながら豊かな心を育む教育を推進する中で、学校教育活動全体を通して人権意識を養い、自他の良さを認め合える生徒の育成を図る。

2 実践内容

(1) 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導の推進

育てたい生徒の姿を「学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身に付けた生徒」とし、互いに学び合い認め合う中で、確かな学力を身につけさせる指導の工夫について研修を深めてきた。この授業づくりの根底として生徒相互の「他者を大切にできる心」を育てることを大切にしている。全ての教科で、1時間の授業の中に小グループでの学び合いの時間を積極的に取り入れ、自分の考えが認められさまざまな友達の考えに触れることで、仲間と学ぶ楽しさを知り、自己肯定感を高めると同時に学ぶ意欲を高められるようにしている。

(2) 総合的な学習の時間を通して

1学年では、「身近な地域における福祉について」をテーマとして毎年12月に地域の高齢者の方と交流会を行っている。高齢者の方を招待して、パンポンや卓球などのスポーツ、けん玉やカルタ取りなどの昔遊びを一緒に行った。共に活動することで、高齢者の方を身近に感じ、どういった接し方が望ましいかを学習した。(資料1)



【資料1 ふれあい交流会】

(3) 道徳、学活の時間を通して

学活では毎年老人ホームでお正月を迎えるお年寄りの方々への年賀状作りに取り組んでいる。このように、面識のない他者に対しても思いを寄せる活動を通して、思いやりの気持ちを育む活動を設けている。また道徳では、各教室の「道徳コーナー」を共通の形で設置し、授業の感想等をいつでも目にすることができるようにしている。(資料2)



【資料2 道徳コーナー】



【資料3 掲示：ありがとう】

(4) 心と体を大切にすることの取り組み

その他にも1年生で「喫煙防止教室」、2年生では「薬物乱用防止教室」、3年生では「性に関する学習会」を行っている。また、2学年では立志式に向けてそれぞれの「生き方」探求につなげるためのステップとして、「ありがとう2のO」というテーマで、日常生活の中から互いの良いところを見つけ、感謝の気持ちを言葉に表わし、それを廊下に掲示することで、互いを大切にするための心を育む場としている。(資料3)

3 一人ひとりの人権を尊重する学校全体での取り組み

(1) ハイパーQ Uテスト、いじめに関するアンケート、面談・教育相談の実施

年度当初の4月と年度途中の11月にハイパーQ Uテストを実施し、学級経営に生かしている。またいじめに関するアンケートを毎月行い、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるよう努めている。その他に、二者面談を年三回（3年生は三者面談を含む）行い、事前の生活アンケートをもとに、一人一人が自立した生活を送れるよう支援している。

(2) 校長賞の授与

台原中では、3つの目標「時間を守る、迷惑をかけない、他の人の役に立つことをする」のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動するよう心がけている。特に「他の人の役に立つ」という目標に向けて、生徒一人一人の良さががんばりを賞賛するために「校長賞」という制度を設けている。賞を受ける対象としては、学年、学級、個人などがあり、具体的内容としては、「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「あいさつの良さ」など、教師が普段の行動の中に積極的に生徒の良いところを見つけ自己肯定感が高まるよう、1年間で全員授業できるようにしている。(資料4)

(3) 日直氏名への「さん」付け

前黒板に毎日書かれる日直者氏名においても、配慮を心がけている。ささやかなこと、当たり前のことの中にも、相手を思いやる気持ちをもつような環境作りを進めていきたい。(資料5)



【資料4 校長賞：団体表彰の掲示】



【資料5 日直名への「さん」づけ】

4 成果

学校生活全体を通して、教師と生徒が共に「3つの目標」を心がけてきたことがより良い関係づくりにつながっていると感じられる。学校生活や授業に関する生徒アンケート結果では、「迷惑をかけないようにしている」で「そう思う」・「やや思う」と答えた生徒が87.1%、「他の人の役に立つことをしようとしている」では「そう思う」・「やや思う」と答えた生徒が92.4%と、生徒の意識の高さが見られた。また、校長賞を通して、「あの人がこんないいことをしていたよ」、「あの人ってすごいよね」などの肯定的な会話が見られ、行動で表そうとする生徒が増えている。

II 今後の課題

○学び合い活動では、グループという形態に満足するだけでなく、その中の役割分担等の工夫や学習で理解したことの振り返りの共有など、全ての生徒が自主的に取り組める授業づくりを心がける必要がある。

○継続的に学校全体で生徒一人ひとりを認め励ますことにより、自己肯定感の向上と共に、他者理解そして互いを大切にす気持ちをもって生活できるようにしたい。

III 人権コーナーの設置の様子

毎年全員で人権メッセージの作成に取り組んでいる。道徳の授業などを通して、思いやりや命の大切さなどについて考えたことを、自分の言葉で発信することで人権感覚の育成を図っている。生徒の作品は廊下や教室に掲示し、互いの考えを認め合う環境づくりに努めている。(資料6)



【資料6 人権コーナー】